

第13回 きらっとあさひ福祉大会 実施報告

作成：旭区社会福祉協議会

日 時：令和7年2月8日（土）14：00～16：00
 会 場：旭公会堂
 主 催：旭区社会福祉協議会・旭区連合自治会町内会連絡協議会・旭区役所
 参加者数：244名
 内 容：

オープニングアクト

昨年好評だった、支援学校卒業生によるパフォーマンスグループ「はっぴオールスターズ」の皆さんに登場いただき、歌とダンスで盛り上げていただきました。

参加者の声（アンケートより）

「パワーをもらえました」
 「一生懸命な姿に感動した」
 「楽しそうにやっているのが伝わった」



第1部

1. 主催者挨拶

2. 表彰式典

旭区社会福祉協議会 社会福祉功労表彰の表彰式典を行い、旭区内の社会福祉の増進に功績のあった個人及び団体の方々を表彰しました。受賞者の方には表彰状と記念品（区内の障害者施設で製造されたお菓子の詰め合わせ）をお渡ししました。

《令和6年度社会福祉功労表彰（内訳）》

地域福祉功労8名・2団体、寄付金品功労4団体、特別功労5名

参加者の声（アンケートより）

「長年の尽力、ありがとうございます」
 「見習いたいと思いました」
 「苦労話なども聞いてみたい」
 「各受賞者の丁寧な紹介が良かった」



当日は16名の方に
 出席いただきました。



第2部

実践報告 ～ひとりひとりが自分らしくいられるまち～ 「障害のある方と子どもたちの交流から」(二俣川地区)

発表者：NPO法人横浜市中途障害者地域活動センターフェニックス旭
「工房アリアーレ」所長 田中乃布枝氏、利用者の方

「学生と地域の交流から」(二俣川ニュータウン地区)

発表者：二俣川ニュータウン地区社会福祉協議会 会長 出井善治氏

コーディネーター：池田 誠司氏
(横浜市社会福祉協議会企画部担当部長)



地区別計画の「目指す姿3」にある「ひとりひとりが自分らしくいられるまち」を体現した、住民が自分のできることを誰かに教えたり協力したりしてつながった事例であること、また発表を聞いた方が「自分の地区でも取り組めるかもしれない」と、きっかけになり得る親しみやすい取組であることから、上記2地区に取組発表をしていただきました。

「工房アリアーレ」からは、施設に通う高次脳機能障害の利用者が、夏休みの事業を通じて小学生に編み物製品を教えたことから生まれた交流や気づきをお話いただき、実際に参加した利用者の方も登壇され、ご自身の言葉で感想をお話しいただきました。



「二俣川ニュータウン地区社会福祉協議会」からは、相互交流の事例をお話しいただきました。近隣の専門学校生徒が地域の福祉まつりでロコモダンス等健康意識の啓発の機会を提供する一方で、地域の高齢者が専門教科の授業に「先生」として協力することで、winwinの関係が築けたと報告がありました。

参加者の声 (アンケートより)

「積極的に関わりを持とうとすることが大切と感じました」
「地域交流の動機付け、まちづくりの行動の参考になりました」
「地域づくりは連携がキーワードだと改めて学びました」
「人と人との交流は、地域でも個人でも宝物と感じました」

コーディネーターより、「関わりをイベントで終わらせない」「挨拶を“深化”させ、日頃のお付き合いに活かす」ことが大切だとのまとめがありました。次年度の計画へ踏み出す、ヒントとなりました。ご参加いただいたみなさんありがとうございました。